

謎の観客



わたしが演出する舞台の劇場ロビーや客席でいつも必ず見かける男性がいる。先日モサンモールスタジオで上演した「私に会いに来て」でも、その男性を見かけた。年齢は四十代から五十代。身長は一七〇センチくらい。小太りで、眼鏡をかけていて、頭髮は薄い。高校の先生風の風体である。何度も見かけるから、その人を見かける度に「あ、また来てる！」と思う。しかし、いつもわたしが見かけるだけで、先方は決してわたしを見ない。知り合いなら、挨拶くらいしそうなものだが、そうでもなさそうである。つまり、その人はわたしが作る舞台の純粹なファンなのだと思う。わたしもわたしで、「いつもご来場ありがとうございます」と声をかければいいものを、なぜかそんな機会もないままにここまで来てしまった。

わたしが劇団で活動していたなら、その謎の観客のことを共有できる人もいるように思う。案外、「小太り先生」などと渾名をつけられて劇団の中では有名な人になったりするかもしれない。しかし、プロデュース公演ではロビーで来場者の受付をする人間が毎回違うから、その人に関する噂も聞かないし、情報もまったくわたしには伝わらないのだ。

毎回、劇場へ足を運んでくれるのだから、まったくありがたいといふか言い様がないが、演劇公演にはこういう未知の観客との奇妙な出会いがある。「小太り先生」は、いったいどんな仕事をしている人なのだろう？ 奥さんはいるのだろうか？ どこに住んでいるのだろうか？ なぜ足繁くわたしの作る舞台に通ってくれるのだろうか？ いつか、わたしとその人が面と向かって挨拶をする時は来るのだろうか。

高橋いさを

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉